

## 連携部会＜精神＞報告

### 構成

委員長：野崎（春日井保健所）

委員：瀧（愛知淑徳大）、梅村（JHN まある）、藤原・廣木（むつみ会）、  
伊藤（東春病院）、久保（守山荘病院）、和泉（かすがいフォレスト）  
疇地（ピアステーション勝川）

開催経過： 第1回 H22. 10. 13（水） 10:00－12:00  
第2回 H22. 11. 25（木） 15:00－17:00  
第3回 H22. 12. 24（金） 10:00－12:00  
第4回 H23. 1. 13（木） 15:00－17:00  
第5回 H23. 2. 9（水） 15:00－17:00  
第6回 H23. 3. 2（水） 14:00－16:00

### 課題

「それぞれの分野の役割があいまいで、専門性が活かされていない」  
（相談支援事業所）  
「家族が安心して気軽に立ち寄り、集える場所がない」（家族会）

### 検討作業

- ・ 地域の社会資源の成り立ちと活動状況の確認（社会資源図）
- ・ 精神障がい者の地域生活支援に関する各機関や団体の役割（意識）表の作成
- ・ （他障がいに比べて）精神の福祉的支援が遅れており、何が課題なのか、何を優先的に解決すべきか、焦点化することが必要  
→参加委員の所属機関から課題の提出
- ・ いったい支援が必要な人はどのくらいいるのか、本当に資源が足りないのか等、議論

## 検討結果

医療につながらない人（未受診、急性期、医療中断）への対応をどうするか

→どうやって繋げるか。受療支援についてたらい回しが起きてはいけない  
協働の受皿（関係機関で定期的検討の場）が必要

→なぜ、こういうことが起きるか。そうならないための工夫を考える  
地域の中で本人や家族が孤立しないよう、きちんと情報提供できるところ、受皿になれるところが必要



- 必要な医療につなげるための関係機関による定期的検討会議を設ける
- 入院中から、また退院時の支援で各機関の専門性が生かされる連携のあり方を検討
- 地域活動支援センターが必要
  - ハード面については、施策推進協議会へあげる
  - ソフト面については、どんな地活があればいいか、引続き検討したい